

荒木特許事務所 ゴマメ通信

(201802号)

発行人：発明を育てる会（千葉発明研究会）肝煎役
 荒木特許事務所 弁理士 荒木 昭生
 住 所：葉市美浜区高洲 2-7-5-103
 Tel/fax043-245-872 Email:a-araki099@nifty.com



ハナミズキ（花水木）

写真の「ハナミズキ」の花言葉は、「返礼」または「期待を秘めた恋」。
 東京市長であった尾崎行雄氏がアメリカのワシントンDCに送った桜「ソメイヨシノ」の返礼として1915年に日本に送ってきたからであるという。4月17日、朝日新聞の天声人語は、アメリカで「犬の木」と呼ばれているという。樹液が犬の皮膚病に効くそうだ。
 2015年（平成27年）にはハナミズキ寄贈100周年記念の郵便切手が発行されている。

この通信は、知的財産関連情報や時に感じる話題に関して、筆者のゴマメが自己の知人や友人に気の向くままに発信する一種のエッセーである。ゴマメの生存の証に「ゴマメの戯言」としてご覧くだされば幸いです。

発 明 の 日

4月18日は発明の日である。これは明治18年（1885年）4月18日に公布された特許法「専売特許条例」を記念して設けられたものである。特許制度についての解説書などには「必要は発明の母」、アメリカ第16代大統領エブラム・リンカーンの演説の中の「特許制度は天才の火に利益という油を注いだ」と言った言葉がよく引用される。そこで「必要」と「利益」を戦争に置き換えたなら「戦争（必要）は発明の母であり、特許制度は天才の火に戦争（利益）という油を注いだ」とも読み替えたい昨今の世界情勢である。

戦争の危機が懸念される度に技術開発が加速され、一部の国や人間に膨大な利益をもたらす半面、他の一部の人間はもとより、地球上の人類全体に取り返しのつかない膨大な悲劇をもたらしている。人工知能を搭載した機器は、人間の肉体的、精神的な負担の軽減をもたらすが、いずれ人間と機械のどちらが主体かわからない時代を迎えようとしている。人工知能に関する出願は1980年頃から増加の傾向にあり、例えば「要約と請求範囲」に人工知能又はAIを含む特許公開公報の検索してみると1990年頃から毎年300件を超える出願がみられる。

特許法には「発明は自然法則を利用した技術思想の創作であって、これを保護して産業の発達に寄与することを目的とする」旨、記載されているが、事故が起きたら止めようもない原子力発電所や、安全と思われる風力発電や潮流発電或いは太陽光発電と言った発明も、自然法則の利用の仕方を間違えると取り返しのつかないほど自然界のバランスを乱す。これは地球環境破壊による生物の生態系の変化や滅亡を招くだけでなく、自然法則をうまく利用したつもりの人間が逆に産業の発達に寄与するという名目のもとに、方向を誤ると自らの滅亡へ突進する結果を導きかねない。技術開発による地球温暖化の影響で潮流が変わり漁獲量が変化し、世界中で異常気象による災害が発生している。”人類が今の生活形態で生存できる期間はそんなに長くは続かない”ゴとマメは杞憂している。

人類は発電機の発明による電気の実用化から150年足らずで人工知能技術の実用化にこぎつけたが、人工知能が自己開発を行うようになれば、人間の開発能力よりももっと早い速度で進化する。後100年もしないうちに、人工知能が人間を超えるに違いない。

先月死亡したホーキング博士は、人工知能の進化は人類の終焉をもたらす。そして地球の宇宙学的観点からも人類の滅亡を避けるために人類の早期地球脱出の必要性を説いていた。4月18日、米航空宇宙局（NASA）は宇宙望遠鏡（TESS）を打ち上げた。これは、地球と同じぐらいの大きさで、生命が存在できそうな条件の太陽系外惑星を探すのが目的である。偶然にもこの日は「日本の発明の日」であった。